

# Battles in W.W.II

## 第2回 マーケット・ガーデン作戦 杉浦 康

### ☆遠すぎた橋“アルンエム”

1940年6月、ドイツ軍の電撃作戦によりフランスは降伏した。

このころ英国首相 W. チャーチルの肝入りで英国でも空挺部隊が誕生した。リングウェーの降下学校では、当初、特殊任務につくコマンドー大隊の降下訓練から始められ、翌1941年には第1空挺師団が創設され、続いて1943年には第6空挺師団が2つ目の空挺師団として編成されたのである。

英空挺部隊の本格的な空挺作戦は、1943年夏のシシリー島降下作戦で、その後、1944年夏のノルマンディー上陸作戦のメルヴィル・カーン作戦を経て、歴戦の空挺部隊へと育っていった。

ドイツの敗北が誰の目にも明らかとなった1944年9月、バーナード・モントゴメリー元師が自



(左) “マーケット(空挺奇襲)”と“ガーデン(地上進撃)”と呼ばれる二つの作戦で、オランダの橋梁群を電撃的に無傷で占拠しようという、野心的な計画を立案したモントゴメリー元師。

(右ページ) マーケット・ガーデン作戦開始時に、英空軍のモスキート偵察機が撮影した戦前直前のアルンエム市街、右上方に英空挺部隊の目標だったアルンエム道路橋が見える。

ら立案した、野心的な史上最大の空挺作戦～ドイツ防衛のためのジークフリートラインの側面包囲を狙った戦略～、すなわち、“マーケット(空挺奇襲攻撃)・ガーデン(地上進撃)”作戦が発動されたのであった。

“マーケット作戦”は、オランダ・ドイツ国境添の河川にかかる橋梁群を英・米の第1連合空挺軍の降下部隊とグライダー部隊の奇襲攻撃によって奪取確保し、後続

の“ガーデン作戦”部隊をアントワープまで進撃させて完結させる計画で、2つの作戦が合体したものであった。

マーケット作戦の英・米空挺部隊の担当任務は、おおよそ次のようなものであった。

○米第101空挺師団： ヴィルヘルミナ運河のソン橋、ヴェーゲル橋とアイントハーヴェンの奪取。

○米第82空挺師団： マース川のグレブ架橋とワール川のナイメーゲン橋の奪取。

○英第1空挺師団： 一番遠いネーデルライン川の、アルンエム橋梁群の奪取(アルンエムの列車鉄橋はドイツ軍が爆破してしまい、道路橋が争奪戦の舞台となった)。

## ☆降下第1日目： 1944年9月17日

米軍のC-47輸送機に曳航された320機のハミルカーとホルサグライダーで、ロジャー・アッカー少将指揮の降下第1波がアルンエムへと向かった。降下地点はドイツ軍の高射砲を避けるため、アルンエム道路橋から12kmも離れた地点が選ばれ、2個空挺旅団(第1～第3空挺大隊)がそれぞれの目的地に降下した。

第2空挺大隊長ジョン・フロスト中佐は約500名の空挺隊員を率いて、ドイツ軍の抵抗を排除しつつアルンエムの道路橋北端を占拠し、北岸の家々に立て籠もってひたすら援軍を待ったのである。

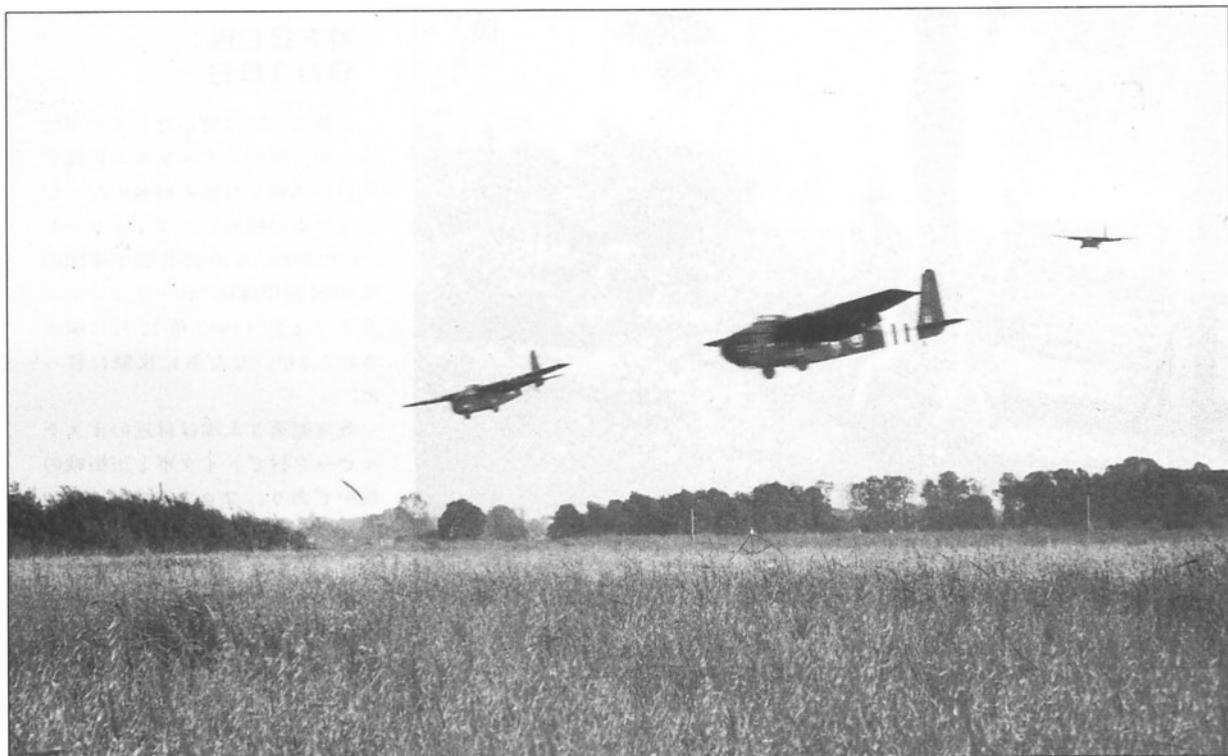




(上) 1944年9月17日、320機のグライダー群が英第1空挺師団の将兵をのせて、オランダのアルンエム道路橋占拠作戦のために飛び立った。

(下) 空挺部隊はドイツ軍の対空砲火を恐れて、アルンエムの市街から9～13kmのところに降下した。グライダー部隊の上方から降下兵が次々と降下してくる。





(上) ワコ・グライダーで降下してくる英空挺部隊。着地したグライダーのパイロットも勇敢に戦ったが、死傷者 730 名を出した。

(下) 降下第 2 日目は悪天候のため援軍も補給も届かず、広く散ってしまった空挺部隊への補給は非常に難しかった。







(上) 最初は混乱したドイツ軍だったが、後に連合軍の作戦計画書入手したドイツ軍は全容を知って態勢を立て直し、次の降下部隊を待ち受けた。

(下) アルンエム付近のオステルピーク村で市街戦を行う、第3空挺大隊の赤い悪魔たち。結局この大隊はフロスト中佐の隊に合流出来なかった。

## ☆降下2日目： 9月18日

奇襲に一時は驚いたドイツ軍だったが、折からアルンエム近郊で兵員の休養と装備の再編中だったドイツ軍の精鋭で、ヴィットリヒSS中將率いる第2SS装甲軍団の第9SS装甲師団“ホーフェンシュタウフェン”(1942年12月に編成された)が、ただちに反撃に移った。

英空挺第3大隊は付近のオステルピーク村でドイツ軍と市街戦の最中であり、フロスト中佐の第2大隊に合流することは出来なかった。その上、英空挺部隊は小型携行無線機の性能が悪く、相互の連絡や援軍の依頼が旨くゆかずに苦勞していた。また、悪天候のため補給品の空中投下と増援部隊の派遣が遅れたが、フロスト中佐と少数の残存兵はまだ、アルンエム橋





北端を保持していた。

夕方になってやっとやってきた、第2波300機による増援の第4空挺旅団は、すでに待ち構えていたドイツ軍によって撃破されてしまった。

#### ☆降下第3日～第4日目 ：9月19日～20日

アルンエム道路橋を死守するフロスト中佐の部隊は、重装備のドイツ軍の戦車、装甲車の包囲と猛攻を受けて、ついに50人ほどの兵力になり救援を求め続ける。だが、アルンエムの手前の村オステルビークにあった第3空挺大隊はドイツ軍の反撃で合流できず、ついに、フロスト中佐の第2大隊には、戦史に残る勇敢な戦いぶりを見せたにもかかわらず全滅の危機が目前へと迫ったのである。

(上) もっとも苦しかったアルンエム降下後4日目に撮影された空挺隊員で、3インチ迫撃砲でドイツ軍に反撃するが、ついにドイツ軍に圧倒されてしまう。

(下) 英空挺隊に繁みから射撃するドイツ軍迫撃砲分隊。射撃中の8cm GrW34 迫撃砲の角度から至近距離の敵を攻撃しているようだ。







何れもアルンエムで孤立したフロスト中佐の第2空挺大隊とリンクしようとした第1空挺旅団と、それを阻止した第9SS装甲師団を中心としたドイツ軍との戦闘の時のもの。

右の写真は日付も場所(アルンエムの市街地であることは確実)もよく分からないが、その他の3枚は、おそらく19日に博物館(Municipal Museum of the Utrechtseweg)〜聖エリサベス病院付近でおこなわれた、第11空挺大隊、サウス・スタッフオードシャー連隊第2大隊(グライダー歩兵)と、第280突撃砲旅団のIII号突撃砲に支援されたメーラー戦闘団の戦闘を撮影したものと思われる。メーラー戦闘団は第9SS工兵大隊(約60名)の戦闘工兵と歩兵からなる100名足らずの部隊であったが、第11空挺大隊とサウス・スタッフオードシャー連隊第2大隊はこの部隊と交戦している内に、側面からグロップSS中尉の指揮する20mm Flakの射撃を受けて撃退されている。結局この日の戦闘で英第1空挺旅団は半包囲に陥り袋叩きに遭って第2空挺大隊の救援を断念した。







(上) “ガーデン(地上進撃)”作戦が遅れ、せっかく確保したアルンエム道路橋を作戦どおりに手に入れることは出来なかった。進撃する英第2軍第30軍団のシャーマン戦車。



(下) この作戦でオランダ領内へ95kmにわたり進撃した連合軍だったが、戦略的には作戦は成功とはいえなかった。風車の脇を行くクロムウェル戦車。

(右ページ) 70～71頁の写真と同時期のもの。III号突撃砲G型は第280突撃砲旅団の1個中隊である。手前の英軍捕虜は、ベレー帽のバッジが空挺隊のものではないので、グライダー歩兵のサウス・スタッフォードシャー連隊第2大隊の将兵であろうか。



### ☆降下第5日目： 9月21日

4日もあれば“ガーデン作戦”部隊と空挺部隊は合流出来るはずだったが、強力なドイツSS装甲師団の存在を察知出来なかった情報部の不手際により、アルンエムの空挺部隊は随所でドイツ軍に個々に包囲されてしまった。さらに、救援に降下したポーランド第1空挺旅団も戦場の真直中に降下してしまい、両軍の十字砲火を浴びて四分五裂となってしまった。

### ☆降下第6日目： 9月22日～24日

ドイツ軍の包囲網はさらに狭められ、履帯の音をカラカラと響かせて、巨大なパンター戦車が近づき、75mm戦車砲の直接砲撃で、フロスト中佐らの抵抗拠点の家も

ろとも次々と吹き飛ばしていった。

いまや、アルンエムに降下した空挺部隊10,000名はたった3,000名となってしまう、戦闘と飢えとで疲れ切ってしまっていた。そこへやっとネーデル川の対岸に英軍地上部隊の先遣隊が到着したのだが、ドイツ軍の激しい砲撃によって渡河救援は実施できなかった。

### ☆降下第7日目： 9月25日

このように全てが手遅れて絶望的な状況の中で、ついに、モントゴメリー元帥はアルンエムからの撤退の命令を下したのである。この日は闇夜で豪雨が降っていたが、残存空挺隊はドイツ軍の砲撃の中をゴムボートに乗って、急流の中を必死で対岸の味方陣地へと撤退していった。だが、負傷者と撤退できなかった空挺隊員数百人はド

イツ軍の捕虜となつたのである。

このアルンエムの戦いでは空挺隊員約10,000人が投入されたが、脱出できたのは2,500人あまりで、捕虜は数百人、死傷損害合計7,000人であった。また、当時としてはきわめて大規模なグライダー作戦であったにもかかわらず、グライダー・パイロットの着陸技術はまさに第1級の出来であった。その上、空挺隊員の士気は高く、軽装備の空挺隊ながら実によく戦い、ヴィットリヒSS中將をして、「アルンエムとオステルベークで戦った英空挺隊員ほど、勇敢な兵士たちを見たことがない」と言わしめている。

結局“マーケット・ガーデン”作戦は完全な成功とはいえなかったが、史上最大の空挺作戦であったことには間違いがない。